

【プレスリリース】

2021年1月12日

特別展「日本の色—吉岡幸雄の仕事と蒐集—」

In Search of Colours of Japan from Works and Collection of YOSHIOKA Sachio

2021年新春、染織史家 吉岡幸雄の回顧展を開催

細見美術館では、2021年1月5日（火）～4月11日（日）まで、

特別展「日本の色—吉岡幸雄の仕事と蒐集—」を開催いたします。

本展覧会は、2019年秋に急逝した染織史家・吉岡幸雄を追悼し、その業績を回顧する没後初の展覧会です。

吉岡幸雄は、京都で江戸時代から続く染色工房の五代目当主であり、染織史家でもありました。吉岡は古来の文献をひもとき、伝世の染織遺品をはじめ古今東西の美術工芸を研究して伝統の色彩を求めました。各地に伝わる染料・素材・技術を訪ねて、その保存と復興に努め、社寺の祭祀、古典文学などにみる色彩や装束の再現・復元にも力を尽くしました。

本展では、吉岡幸雄の美への憧憬と本質を見極める眼、そしてあくなき探求心によって成し遂げられた仕事と蒐集の軌跡を紹介します。

吉岡幸雄(よしおか・さちお)プロフィール



昭和21年、京都市生まれ。昭和48年、図書出版「紫紅社」を設立。美術工芸の雑誌・全集・豪華本などを編集・出版。CM制作、美術展覧会の企画にも携わる。昭和63年、生家「染司よしおか」五代目当主を嗣ぐ。平成3～5年、薬師寺三蔵院の幡、薬師寺「玄奘三蔵会大祭」の伎楽装束、東大寺の伎楽装束を制作。平成20年、源氏物語の色五十四帖を再現。平成21年、京都府文化賞功労賞受賞。平成22年、菊池寛賞受賞、平成24年、NHK放送文化賞受賞。令和元年9月、出張講演先にて急逝。

主な著書：『日本の色辞典』・『源氏物語の色辞典』・『王朝のかさね色辞典』（紫紅社刊）、『千年の色 古き日本の美しさ』（PHP研究所）など多数。

<http://www.emuseum.or.jp>

細見美術館

吉岡幸雄の仕事 — 吉岡の工房「^{そめのつかさ}染司よしおか」は日本古来の染色方法で、“いにしへの色”の再現に取り組む。なかでも、東大寺二月堂のお水取り、石清水八幡宮の放生会、薬師寺の花会式に用いられる飾り花の染和紙は、毎年欠かさず献納している。また薬師寺や東大寺などに伝わる天平時代の伎楽装束の天然染料による復元、『源氏物語』など古典文学に表現された衣裳の再現も行っている。現在は、三女・更紗が六代目当主として後継。



源氏物語 蘇芳のかさね



源氏物語 蘇芳のかさね 袖部分



伎楽装束



源氏物語 澁標

吉岡幸雄の蒐集—「染司よしおか」には、研究のため幸雄とその父・常雄が蒐集した

多彩な古裂類が保存されている。展示では、正倉院裂、熨斗目、舶載の更紗、「小袖屏風」(国立歴史民俗博物館蔵 野村コレクション)で知られる小袖裂といった貴重な染織遺品を紹介する。



古代印度更紗（赤星家旧蔵）



古裂帖（旧野村コレクション）

主な展示作品

- ・源氏物語 滯標（みおつくし）
- ・源氏物語 蘇芳（すおう）のかさね
- ・伎楽装束
- ・古代印度更紗（赤星家旧蔵）
滋賀県大津の大名「赤星家」に伝来し、児玉善三郎画伯を経て、吉岡が入手した更紗。
- ・古裂帖（旧野村コレクション）
明治から昭和にかけて活躍した野村正治郎が集めた小袖の古裂帖。

本展は下記の4章で構成されています。

第Ⅰ章

祈りと荘厳の色彩

飛鳥・天平の時代には、仏教の伝来とともに国家の礎が築かれ、異国から様々な文物がもたらされた。

吉岡は、奈良の大寺に今も守り伝えられる、これらの行事にまつわる遺宝や服飾を目の当たりにし、推考を重ねて、わが国染織史上の頂点を極めたといわれる時代の華やかな色彩の再現に取り組んだ。

第Ⅱ章

王朝文学の色

和様の文化が花ひらいた平安時代。

吉岡は王朝びとの磨き上げた感性迸（ほとばし）る色彩観を知ることができる、さまざまな文献資料、大和絵などの絵画資料も渉猟し、典雅艶麗な色の数々を甦らせた。

第Ⅲ章

神に捧げる 季節の彩り

変わることなく巡りくる季節は古来、めでたきこととされ、ひとびとは神霊への祈りと感謝を込めて、折々に捧げものを奉った。

吉岡は染め人として、季節の移ろいとともな歳時にまつわる習わしを大切にしたい。

第Ⅳ章

古裂の美—いにしえをたずねて

染織の歴史の流れの中に生きようとする吉岡にとって、経る時の荒波を越え大切に保持されてきた染織遺品は、先人の叡智を伝える何よりの道標であり、取り組む仕事への闘志をかきたてる源泉ともなった。愛蔵したコレクションの一部を紹介する。

展覧会要綱

1. 展覧会名称 特別展 「日本の色—吉岡幸雄の仕事と蒐集—」
2. 会 期 2021年1月5日(火)～4月11日(日)
前期 2021年1月5日(火)～2月21日(日)
後期 2021年2月23日(火・祝)～4月11日(日)
3. 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
4. 休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌日)
5. 入館料 一般 1,400円 学生 1,100円
6. 主催 細見美術館 染司よしおか 京都新聞
7. 特別協力 紫紅社
8. 監修 河上繁樹氏(関西学院大学教授)
9. 協力 ニューカラー写真印刷株式会社
10. 後援 NHK 京都放送局
11. 会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3
<http://www.emuseum.or.jp>
12. 本展連絡先 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚・速水 kouhou@emuseum.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクを着用ください。また、急激な状況の変化により、止むを得ず開館・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

資料(画像)・取材をご希望の方は、ホームページリリースページもしくは下記QRコードより「資料(画像)申込フォーム」からお申込みください。

